



フィールドは、ふるさとから世界まで。
FUTABA.
株式会社 ふたば



<https://www.futasoku.co.jp>

📍FUTABA BASE

地域未来牽引企業



地域をはかり まちをつくり 未来へつなぐ

東日本大震災から十余年が経過し、皆様の記憶におかれては、震災が「過去」の出来事と感じる方もいらっしゃることと思います。しかしながら、本社がある双葉地域は復興道半ばで様々な課題が、未だ山積しております。これらの課題解決の為、創業以来の祖業である「建設コンサルティング」や「測量・用地調査」の視点は必要不可欠ですが、それだけの視点では復興への関わりにも限界があります。

私達は、この限界を打ち破るため、様々な分野において実証・実験を繰り返し、多くの技術と経験を培ってきました。これからも創業52年の伝統技術とニュートラルな新技術・サービスを融合し、地域の課題解決に取り組んで参ります。特に震災以降に立ち上げた弊社業務の4本の柱である、「空間情報コンサルティング」、「環境コンサルティング」、「地域デザイン(まちづくり)」、「海外コンサルティング」をより高いレベルの技術に昇華させ、多柱化サービスの実現に向けて取り組んで参ります。

本社のある富岡町そして双葉地域は、地震・津波・原発事故の多重災害を受けた世界で前例のない場所です。教科書がない復興のプロセスに身を置くことで見える、課題先進地域での課題解決に直接関わり、それらに挑むことで生まれる技術や経験があります。これらは、日本で、そして世界で必ず求められます。私達はこの地域を深く掘り下げていくことで、世界が広がると信じ、私達が目指す「社会コンサルタント」へと成長して参ります。

代表取締役 遠藤秀文



企業理念

**広い視野、そして情熱と探究心を高め、
社会の元気エネルギーの礎を築くことに貢献する。**

先義後利

人が守るべき道徳を一番に考えて、利益を二の次に考えること。
「義」は人として道徳、仁義。「利」は利益。

不易流行

いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、
新しく変化を重ねているもののも取り入れていくこと。
また、新味を求めて重ねていく流行性こそが不易の本質であること。

良樹深耕

良い樹を育てる為には、良い土壌が必要となる。良い人材・良い技術・良い企業を育てるには、深く耕し・豊かな土壌を育むことが重要である。

社 是

経営理念

1 私たちは、技術と心の両面を日々研鑽し、
“広い視野そして情熱と探求心を高め”地域の皆様に、
①安心・安全・喜び・充実の空間の創造
②地域の再生と発展
③豊かな自然環境の保全
を通じて、明るい社会づくりに貢献して参ります。

2 私たちは、真心と誠実な気持ちを持ち続け、多くの人に愛され、
頼られる地域の企業人を目指し、次世代の手本となる生き方と行動を
常に意識して参ります。

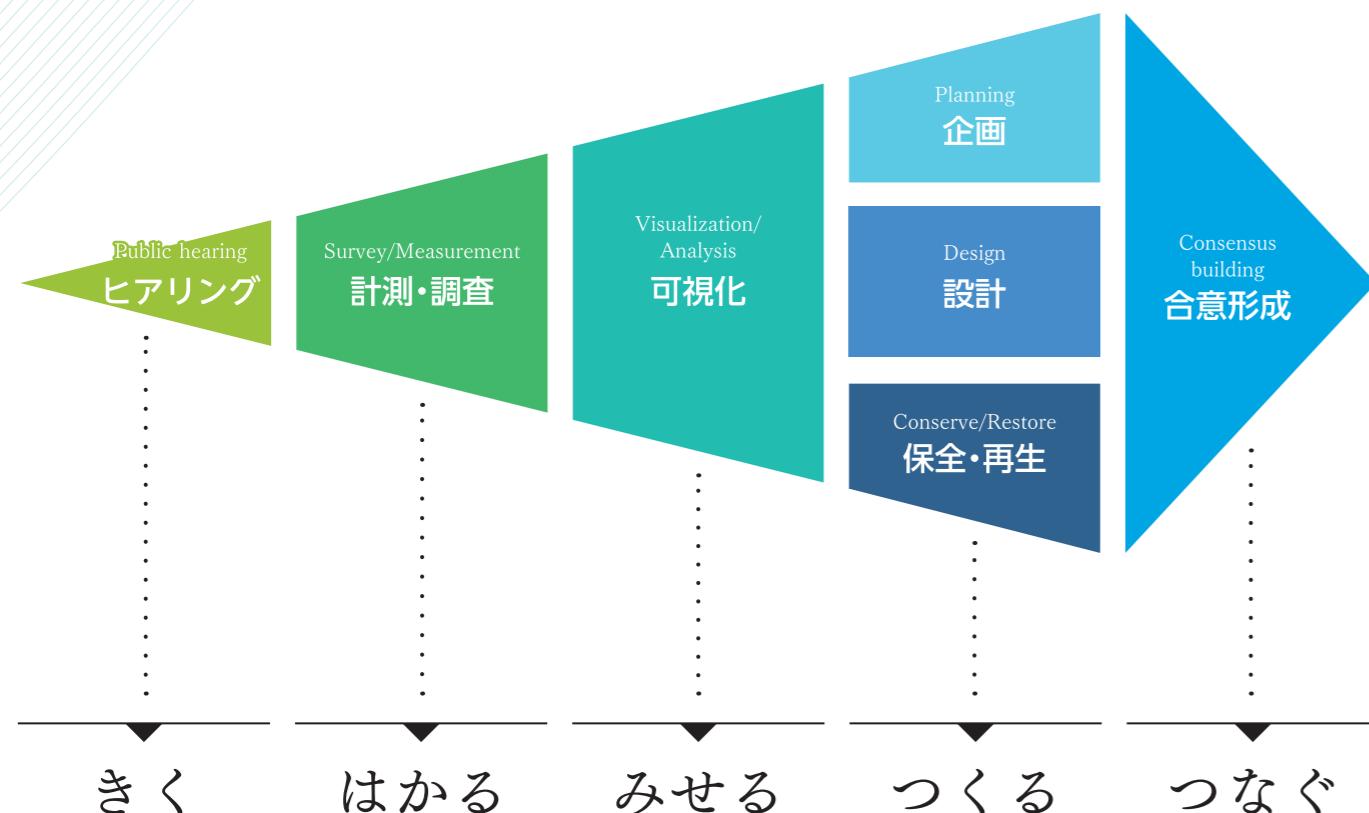
3 私たちは、かけがえのないパートナーである社員同士の絆を深め、
そして互いに育てあい、温かい社風づくりを通じて、やりがいのある職場環境と
幸せな家庭環境づくりを目指していきます。



「社会コンサルタント」を目指し
各ステップを
ワンストップサービスとして提供することで
地域の課題解決を支援します

『ふたばの事業』は福島県浜通りで、東日本大震災を乗り越え、新たな領域へ展開しています。

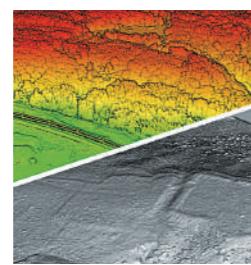
社会インフラ整備の測量・設計を中心とした「ハード」事業から、人や地域の思いをつなぐ「ソフト」事業まで、
お客様の多様なニーズに対応し山積する地域の課題を人と技術の力で解決します。
その力を地球規模の課題解決へ展開できる“社会コンサルタント”を目指します。



地域住民や関係者の
課題意識・ニーズを
ヒアリング



データを収集して、
地域課題を網羅的かつ
客観的に知る



データを加工・分析して、
課題の本質を
考えやすくする



地域課題の解決に向けて、
モノやコトを
設計・計画する



様々な関係者との
合意形成を通じて、
事業を円滑化する

6つのコンサルティングと ふたばのソリューション

「広い視野」を持って「迅速」「柔軟」に最善の解決策をご提案いたします

長年の経験で培った「建設」コンサルティングをベースに、「環境」の様々な情報をUAVなどの最新技術で調査し、
「空間情報」として見える化します。見える化されたデータは「まちづくり」の協議の場でも活用しています。

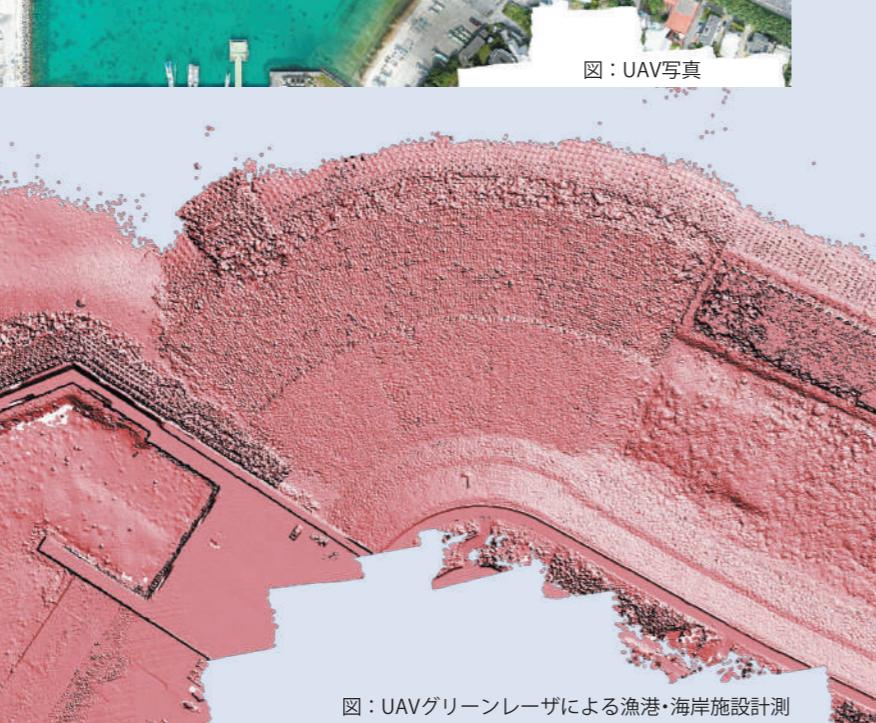
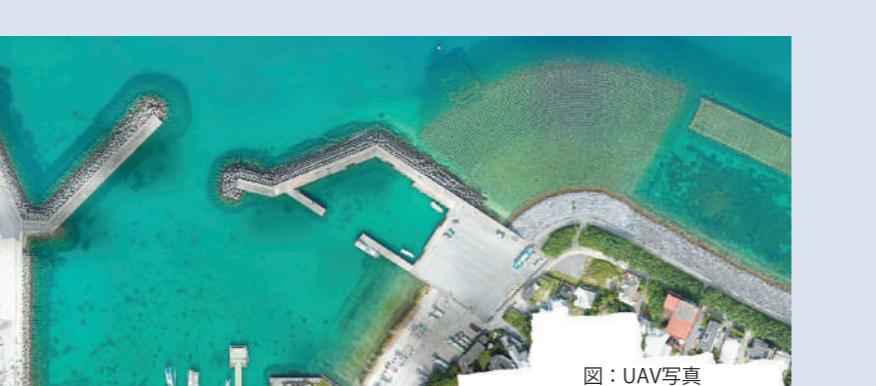
これらのコンサルティングサービスで培った技術・経験を活かし「海外」へも展開しています。





UAV搭載型グリーンレーザスキャナ

水を透過する緑色の光を照射するグリーンレーザスキャナをUAVに搭載し、陸域及び水域の表層から地面を三次元的に同時に観測できます。測深能力は透明度によるため、透明度が高いタイミングで計測することでより効果的な計測が可能です。



UAV搭載型3Dレーザスキャナ

近赤外線を照射するレーザスキャナをUAVに搭載することで、陸域の表層から地面を三次元的に観測できます。高密度な三次元点群により、植生下でも詳細な地形情報を取得可能です。

図: UAVレーザ測量による地形測量(地面フィルタリング)

ツール一覧



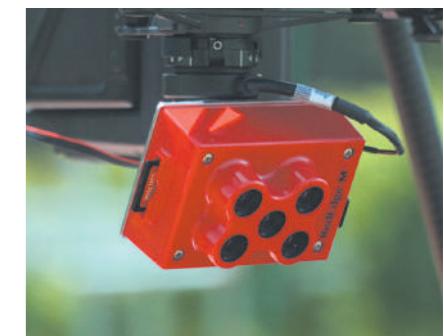
点検用UAV

GPSが受信できない環境でも自律制御可能です。磁気の影響を受けにくい構造かつ全方位障害物検知システムを搭載しています。安全な近接撮影が可能です。



UAV搭載型サーモグラフィカメラ

UAVにより温度情報を表現した写真が撮影可能です。温度情報を解析することで、大型動物の調査や構造物の維持管理等で利活用可能です。



マルチスペクトルカメラ

5バンド(光の波長帯: Blue, Green, Red, RedEdge, Near)の写真を撮影可能です。UAVに搭載して撮影することも可能です。



据置型3Dレーザスキャナ

計測対象物の材質や形状に応じて、高精度かつ高密度な3D点群データの計測が可能です。



車載型3Dレーザスキャナ

車両が走行でき広範囲な現場で活躍し、短時間でスピーディに3D点群データの計測が可能です。



ハンディ型3Dレーザスキャナ

屋内、山林、洞窟など、徒歩でしか立ち入れない広範囲の現場も、短時間でスピーディに3D点群データの計測が可能です。

保有機材リスト／保有数

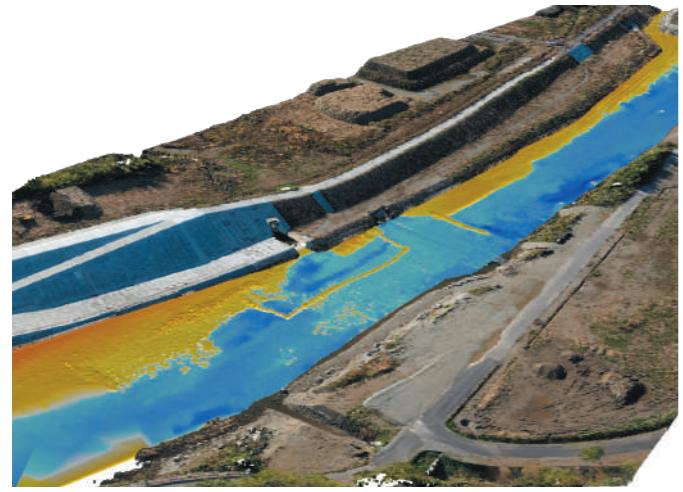
▶ 写真測量用UAV	10
▶ 点検用UAV(自立制御)	1
▶ UAV搭載型レーザスキャナ	2
▶ UAV搭載型グリーンレーザ	1
▶ UAV搭載型サーモグラフィカメラ	1
▶ マルチスペクトルカメラ(UAV搭載可能)	1
▶ 電子平板	1
▶ GNSS(全球測位衛星システム)	6
▶ 電子レベル	1
▶ オートレベル	1
▶ GPS・ソナー搭載自立航行無人リモコンボート	1
▶ 船外機付きボート/精密音響測深器	1

河川・砂防・湖沼

河川、砂防施設、ダム等は、近年激甚化する自然災害から国民の生命・財産を守り、地域の自然環境を保全する重要な社会資本です。安全・安心で快適に暮らせる地域づくりのため、UAVグリーンレーザ測量等の最新技術も用いながら地域の景観や利用特性、生態系に配慮した測量調査、計画設計を行っています。

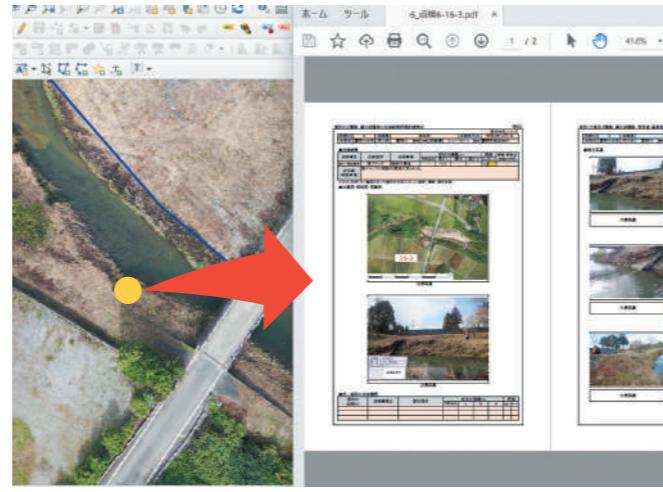
- 基本設計 ● 砂防堰堤基本設計 ● 河川基本設計 ● 詳細設計 ● 老朽化調査 ● 長寿命化計画 ● 洗堀・堆砂量調査 ● UAV写真測量
- UAVグリーンレーザ測量 ● 三次元点群 ● ソナー搭載自律航行無人リモコンボート ● 深浅測量 ● 水質・底質調査 ● 生物調査

UAVグリーンレーザによる河道調査



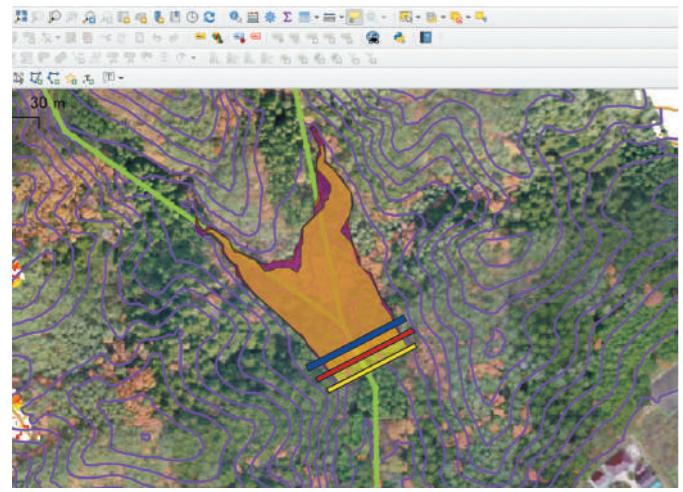
UAVグリーンレーザを用いて、水面及び水面下の点群データを取得することができます。取得した点群データに計画河床高を組み合わせることで洗堀量及び堆砂量を算出することができ、堆砂除去の計画を立案することができます。

UAVを活用した長寿命化計画



UAV写真撮影によりオルソモザイク画像を作成し、距離を計測でき、効率的な調査を実施することができます。俯瞰的な視点と目視による視点を組み合わせることで、わかりやすい帳票を作成することができます。また、調査結果をGISで一元管理することで台帳整備として活用することができます。

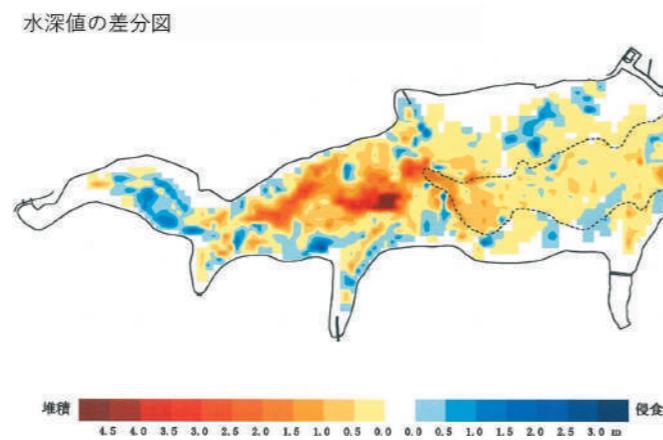
UAVを用いた砂防堰堤位置の検討



UAVを用いて、レーザ測量を行い森林下の地形測量を実施します。取得した点群データより、陰影図や傾斜図を作成し、地形状況等を求め堰堤位置を検討します。作成データはGISで一元管理を行い、必要な情報を迅速に提供することができます。

ソナー搭載自立航行

無人リモコンボートによる深浅測量



音響測深機およびDGPSを搭載したリモコンボートを用いて、河川、湖沼、ダム、ため池の水深を把握する深浅測量を実施します。音響測深機によって得られたデータから湖底地形を把握し、変化状況および貯水量を算出し湖水管理の資料を作成します。

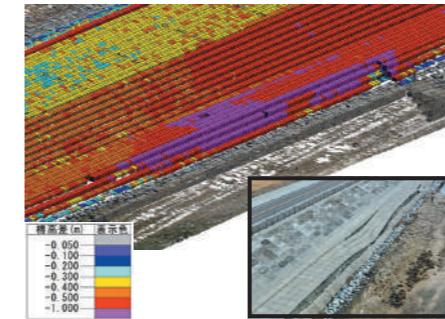


海岸・干潟・汽水域・サンゴ礁

UVA搭載型グリーンレーザスキャナにより、今まで手軽に計測できなかった河川から海の浅海域の陸域および水域の地形を面的に計測することで河川および海岸の保全施設などの維持管理を促進します。

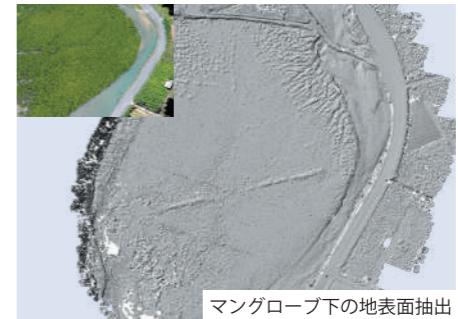
- UAVグリーンレーザ測量 ● UAVレーザ測量 ● 三次元点群 ● 海底地形計測 ● 護岸等の構造物計測
- サンゴ礁計測 ● 堆砂・洗堀解析 ● 海岸保全施設の維持管理 ● 減災・防災 ● 環境保全 ● 環境(サンゴ礁)モニタリング

護岸の沈下解析



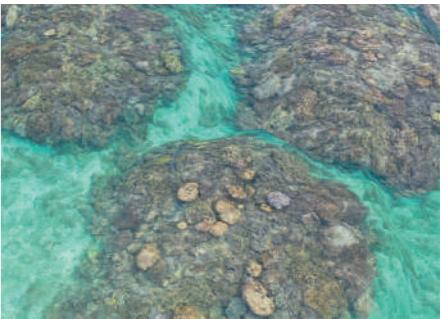
UAVグリーンレーザ測量により、海岸保全施設を定期的にモニタリングすることで、変化量などを把握し、防災・減災のための適切な維持管理に活用できます。

干潟・汽水域の調査



UAVグリーンレーザを用いて、海岸に隣接するマングローブ等の植生の点群データを取得することで、変化量などを把握し、防災・減災のための適切な維持管理に活用できます。

サンゴ礁調査



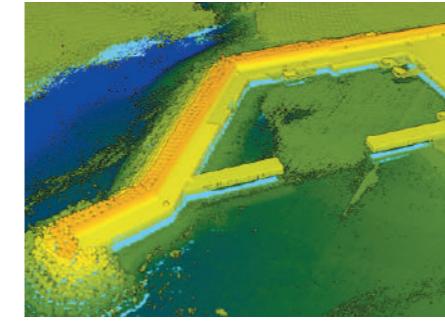
三次元化したサンゴ礁とUAVで撮影した写真などと組み合わせることで、地形やサンゴの分布を把握し、サンゴの保全計画等へ活用できるよう研究を進めています。

港湾・漁港

港湾・漁港施設は漁業者等の利用者や国民の生活において、重要な社会資本となります。UAVグリーンレーザ測量等の最新技術を活用しながら、施設整備や維持管理のための測量、計画設計を行っています。

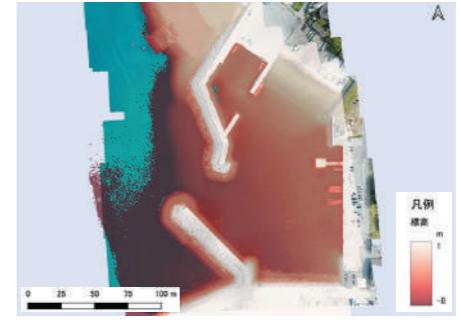
- UAVグリーンレーザ測量 ● UAVレーザ測量 ● 三次元点群 ● 深浅汀線測量 ● 水質・底質調査 ● 潜水調査 ● 海象解析 ● 漂砂解析
- 堆砂・洗堀解析 ● 渔港施設の基本計画、基本設計、詳細設計 ● 長寿命化計画 ● 減災・防災

堤防・護岸の維持管理



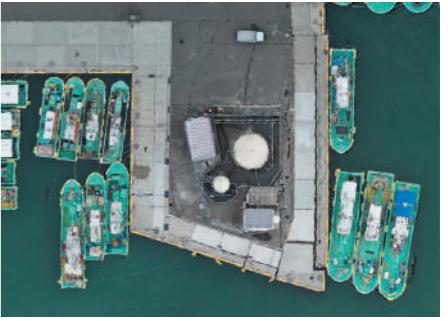
港湾・漁港保全施設を定期的にモニタリングすることにより、経年変化や自然災害による影響などを把握し、防災・減災のための適切な維持管理に活用できます。

航路埋没調査



船の安全な運行のため港内の地形を計測し、堆砂による航路埋没の状況などを把握することで、防災・減災のための適切な維持管理に活用できます。

漁港施設の維持管理



漁港構造物や岸壁等の施設を定期的にモニタリングすることにより、経年変化や自然災害の被害状況を把握し、防災・減災のための適切な維持管理に活用できます。

道路・公園

道路や公園、工業団地等は、地域の生活基盤を支える重要な社会資本であり、安全・安心、快適に暮らすためには重要な施設です。BIM/CIMなどの最新技術も活用しながら、整備に関わる調査、解析、計画、設計、維持管理に至るコンサルティングサービスを行っています。

- 三次元点群 ●BIM/CIM ●維持管理 ●道路概略設計・詳細設計 ●公園・運動場設計 ●構造物詳細設計
- 工業団地概略設計・詳細設計

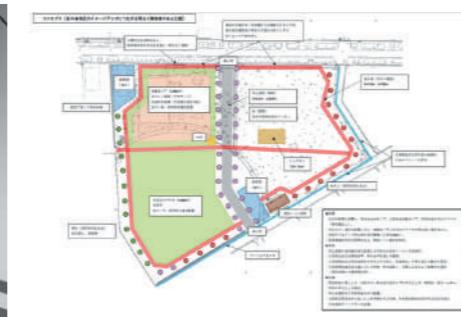
CIM



走行シミュレーション



公園計画設計



利用用途に応じた詳細度の三次元モデルを作成し、維持管理等に活用できます。また、三次元点群データと組み合わせることで、再現性を高くしています。生産性向上の抜本的改革として積極的に取り組んでいます。

三次元モデルを作成することで、走行シミュレーションを行うことができます。UAV等で計測した点群データと組み合わせることで、再現性を高くしています。生産性向上の抜本的改革として積極的に取り組んでいます。

地域の憩いの場としても活用される公園の設計を行います。要望に対して最適なコンサルティングサービスを行うため、UAVなどを活用することで現況を把握し様々な協議資料等の作成もできます。

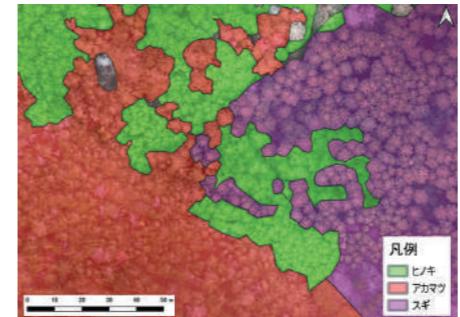


森林

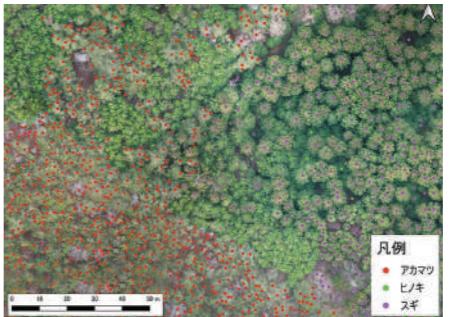
UAVによるリモートセンシング技術を中心に人の入りが困難な森林域に対して、森林の状況を計測および解析し、地理情報システムにより一元管理することで森林管理を効果的に実施するための情報を提供します。

- UAV写真測量 ●UAVレーザ測量 ●ハンディレーザ計測 ●三次元点群 ●UAV放射線量率計測 ●地形測量 ●林道設計
- 毎木調査・解析 ●樹種分類 ●GIS ●森林成長量の推定 ●材積量 ●森林管理 ●減災・防災 ●環境保全 ●環境(放射線)モニタリング

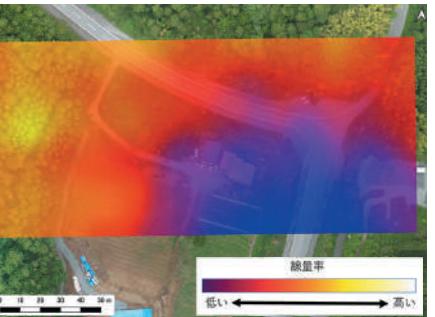
UAV写真による樹種分類



三次元点群による毎木解析



UAV空間放射線量率計測



航空機モニタリングで使用されている手法をベースに、日本大学工学部情報工学科により低高度のUAV計測に最適化された手法を用いて、高分解能の地上1m高の空間放射線量率を面的に解析します。

点検

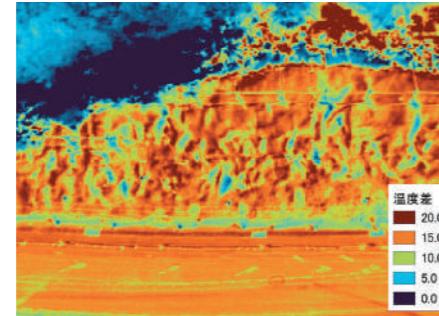
今後増加していく点検・維持管理業務に対応するため、様々な状況に合わせた機材で調査を行うとともにAIなどの最新技術を活用しながら各種調査点検を実施することで、効率的で的確な点検につなげていきます。

- 点検 ●橋梁点検 ●点検用UAV ●法面点検 ●サーモグラフィ ●空洞化 ●道路景観調査 ●車載写真レーザ測量(MMS)
- 三次元点群

UAVを用いた橋梁点検



UAVを用いたモルタル吹付法面点検



MMSを用いた道路調査



点検車より機動性に優れたUAVを活用することで、効率的な調査を行います。機体に搭載された6箇所のカメラ映像により全方位の障害物を検知し自動回避するため、T桁の間など狭窄部でも調査・撮影が可能です。

UAVにより撮影した写真から損傷状況を把握するとともに、サーモグラフィ写真によりモルタル吹付法面の空洞化を判断することで、人の入りが困難な現場でも短時間で調査・計測が可能です。

車載写真レーザ測量により、道路および周辺の構造物や植生を三次元点群として取得し、クラック、わだち、支柱木などの状況調査を行います。定期的に計測することで経年変化も確認できます。



農業

日本の食料自給率は年々減少傾向にあり、大きな課題となっています。課題解決のため、農業用水路等の整備が必要となります。UAVや三次元点群を中心としたリモートセンシング技術を活用し、広範囲の農地等に対する測量設計を行います。

- UAV写真測量 ●UAVレーザ測量 ●地上レーザ測量 ●UAVグリーンレーザ測量 ●農業用水路・排水路の測量設計 ●ため池の測量設計
- ソナー搭載自律航行無人リモコンボート ●UAVマルチスペクトル撮影 ●不陸解説 ●鳥獣害対策 ●サーモグラフィ

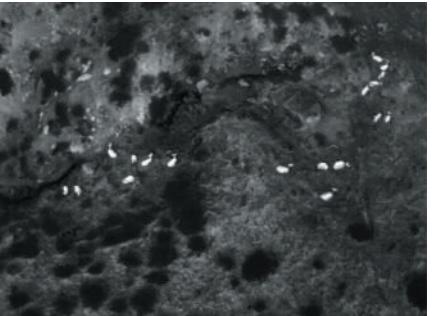
ため池の測量・設計



果樹の三次元化



鳥獣害対策



農業用水の確保のために、ため池は重要な社会資本となります。UAVや三次元点群等の最新技術も活用し、ため池等の施設の測量・設計を行っています。

地上レーザ測量を用いて、果樹の三次元点群データを取得することで果実の位置や果樹の状態をデータ化し、果実や剪定の情報も付与することで若手農家への研修やスマート農業の基礎資料として活用できます。

日本ではシカ・イノシシの獣害被害の増加が顕著です。UAVに搭載した熱力メラにより撮影した画像から、シカの生息数や行動パターンを把握することができます。繁殖しそうした野生動物駆除等の計画策定に役立てています。

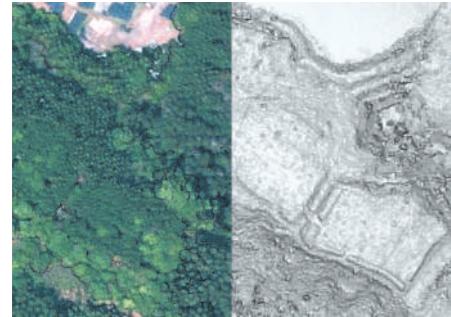


遺跡文化財

文化財の調査や記録、管理支援として、レーザスキャニングなどの新技術を用いた計測や、GISおよびVRなどを利用した文化財保存・活用の提案に取り組んでいます。

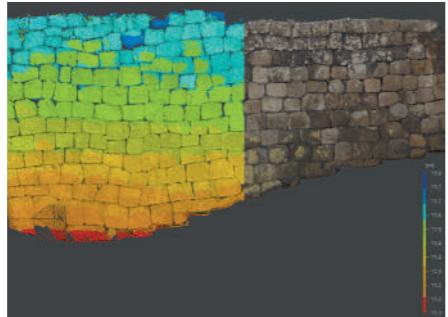
- UAV写真測量 ● UAVレーザ測量 ● 地上レーザー測量 ● 三次元点群
- 図面作成 ● 台帳作成 ● GIS ● VR ● 文化財資料整理

森林下の遺跡調査



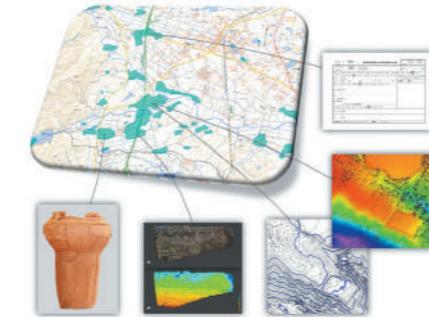
UAVを用いた写真撮影やレーザスキャニングを行います。レーザスキャニングでは森林下にある地形測量が可能で、UAV写真や点群データから動画の作成を行います。

文化財の計測・記録



歴史的建造物や石垣等の文化財には地上レーザを用いた記録・計測を行います。点群データより断面図等の各種図面や動画の作成が可能で、さらには復元にも活用することができます。

文化財保存・活用の提案



文化財の計測・記録だけでなく、活用のための提案を行っています。GIS、VRをはじめ、3D動画作成、区域の文化財を管理するための資料整理や台帳作成にも取り組んでいます。



海外

海外でのODAプロジェクトに深く携わり、島しょ国の海岸・サンゴ礁保全や世界的に有名なマチュピチュ遺跡に関する調査を実施しています。

- 保全計画(海岸、サンゴ礁) ● サンゴ生態調査 ● 基準点測量 ● 水準点測量 ● 深浅汀線測量
- 港湾・漁港設計 ● 施工管理 ● GIS構築 ● 遺跡、文化財調査

海外の業務実績



これまで日本を除く7カ国にて、海岸及びサンゴ礁の保全分野では島しょ国を中心、遺跡文化財分野ではペルーにて調査等を行った実績があります。

遺跡文化財の保全調査



『マチュピチュ』遺跡では、土砂崩れや観光客の増加による著しい損傷の懸念があります。そこで、日本の三次元測量技術を活用し文化財の保全のほか、防災対策等へ利活用するための調査・計画を行っています。

島しょ国の海岸保全・防災計画



島しょ国の海岸において、海岸侵食、高波浸水被害等様々な海岸問題が生じています。UAVを活用した現地調査を行い、海岸保全、環境、利用、開発の調和を考慮した海岸保全計画を行っています。

まちづくり

双葉郡の復興・再生に貢献すべく、地元企業として、「地域密着型」かつ「最新技術」を駆使して、住民主体でのまちづくり支援や総合計画の策定を行っています。

- 住民主体のまちづくり活動への支援業務(ワークショップ支援)
- 総合計画、地域計画策定業務 ● VRコンテンツ作成

住民主体まちづくり支援



震災により全町避難となった富岡地区と夜の森地区において、住民主体でのまちづくり支援を行っています。ワークショップを開催し、住民や町内事業者、行政とともに、これからのが各地区における将来構想の作成を行っています。

地域づくりプラン支援



震災により多大な被災を受けた富岡漁港周辺を活性化すべく、漁港の背後地にある未利用地において地域づくりプランの策定を行っています。VRで将来イメージを作成し、関係者との合意形成を行っています。

地域のプランディング



震災以降、地域の賑わいづくりのために富岡町で栽培を行っているワイン用ブドウを題材に、脱炭素と復興まちづくりをテーマにしたプランディングの検討を行っています。



災害対応

近年激甚化する自然災害に対して、被災後の迅速な対応が求められています。UAVを中心としたリモートセンシング技術を活用し、広範囲の被災現場や危険箇所の計測を迅速に実施し、被害状況の把握を行っています。

- UAV写真測量 ● UAVレーザ測量 ● UAVグリーンレーザ測量 ● 三次元点群 ● GIS ● BIM/CIM ● 点検 ● 減災・防災
- 災害復旧の測量設計 ● 地形測量

UAVによる災害調査



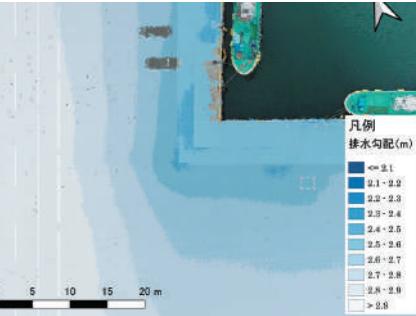
上空が開けている河川や農地などに対してUAVにより空撮することで、広範囲の被災現場や接近が危険な現場の災害箇所の特定その規模などを把握することができます。

崖地の崩落対応



土砂崩落が発生した場合でも、三次元点群データを取得することで安全に被災直後の状況を確認し、早急な土砂撤去に移行可能です。点群データから図面を作成し、適確な復旧計画を行います。

沈下・隆起状況や排水勾配の確認



各種三次元点群測量により、広範囲の高さ情報を取得し既存の高さ情報と比較することで変化量を把握可能です。等高線や色分けなどの表示を工夫することで沈下量や排水勾配をわかりやすく確認できます。



保有資格

保有資格一覧

工学博士	2名
水産学博士	1名
理学博士	1名
技術士[総合技術監理部門]建設・道路	1名
技術士[総合技術監理部門]建設・河川、砂防及び海岸・海洋	1名
技術士[建設部門]道路	1名
技術士[建設部門]河川、砂防及び海岸・海洋	4名
技術士[建設部門]建設環境	1名
技術士[農業部門]農業農村工学 (旧:農業土木)	1名
技術士[上下水道部門]下水道	1名

技術士[森林部門]森林土木	1名
技術士[応用理学部門]地球物理 及び地球科学	1名
学芸員	1名
小型船舶操縦技師	1名
APECエンジニア	1名
IPEA国際エンジニア	1名
RCCM[下水道]	1名
RCCM[河川、砂防及び海岸・海洋]	1名
ふくしまME(保全)	1名
ふくしまME(防災)	1名
ふくしまME(基礎)	6名
測量士	13名
測量士補	13名

地理空間情報専門技術認定 基準点測量1級	1名
1級土木施工管理技士	5名
土地改良補償業務管理者	2名
農業土木技術管理士	1名
第1種情報処理技術者	1名
二等無人航空機操縦士	1名
DJIスペシャリスト	3名
TOEIC800点以上	3名
下水道第1種技術検定	1名
下水道第2種技術検定	1名

2023年9月1日現在

ふたばのCSR



福島復興ワインプロジェクト

醸造用のブドウ栽培やワインづくりを地域産業の一つとして育て、ふるさとの復興をはかっていくプロジェクトを応援しています。



研修受入れ

ワークショップ・シンポジウムの開催、地域住民の意見交換の場として富岡本社の会議室を開放しています。



学校教育サポート

地元教育機関へのサポートとして、部活動、測量技術の体験授業などを実施しています。



アイラブロード事業

郡山市のアイラブロード事業へ参加し、支社周辺の草むしりやゴミ拾いを実施しております。本社のある富岡町でもゴミ拾い、海岸清掃、草刈りなどの美化活動を実施しています。



ふたば交流センター「整の箱」

南相馬の仮設住宅団地として使用されてきた集会所を移築し、震災の記憶を伝える遺構とするほか、住民が未来を考えための場として地域にも開放しています。



地域イベント参加

お祭り、スポーツイベント等の地域のイベントへ参加することで、イベントを通して地域の活性化のための活動を行っています。

出身校一覧

国立大学	北海道大学 / 室蘭工業大学 / 弘前大学 / 岩手大学 / 福島大学 / 茨城大学 / 東京農工大学 / 宇都宮大学 / 新潟大学 / 静岡大学 / 山口大学 / 九州大学
県立大学	会津大学
私立大学	札幌大学 / 白鷗大学 / 千葉工業大学 / 中央大学 / 東海大学 / 東京農業大学 / 東洋大学 / 日本大学 / 法政大学 / 立正大学 / 医療創生大学 / 東北芸術工科大学 / 八戸工業大学 / 獨協大学
工業高等専門学校	福島工業高等専門学校

会社概要

会社名	株式会社ふたば
創業	1971年(昭和46年)11月24日
登録	建設コンサルタント登録 建02第8271号 測量業登録 登録第(10)-8975号 (独)国際協力機構(JICA)登録01674 ISO9001:2015
資本金	10,000,000円
従業員数	50名(契約社員等を含む)
代表メールアドレス	info@futasoku.co.jp

会社役員	代表取締役 遠藤 秀文 副社長 猪狩 優 取締役 遠藤 直美 特別顧問 和田 豊 執行役員 泉 正寿 執行役員 鈴木 徹 執行役員 高橋 正人
加盟団体	社団法人 福島県測量設計業協会 社団法人 日本測量協会 福島県農村振興技術連盟 社団法人 日本技術士会 社団法人 日本技術士会 東北支部 社団法人 日本技術士会 東北本部福島県支部 社団法人 東北土地改良測量設計技術協会 社団法人 建設コンサルタント協会 社団法人 マリノフォーラム21

加入学会	社団法人 土木学会 社団法人 リモートセンシング学会 社団法人 写真測量学会 社団法人 日本サンゴ礁学会
------	---------------------------------------------------------------

沿革

昭和46年11月24日	創業・営業開始
昭和48年11月21日	測量業登録
昭和51年4月1日	社団法人 日本測量協会加入
昭和52年10月1日	法人化(有) 双葉測量設計事務所
昭和59年4月10日	社団法人 福島県測量設計業協会加入
平成6年3月31日	補償コンサルタント登録
平成6年10月19日	双葉測量設計株式会社に組織変更
平成12年5月8日	建設コンサルタント登録
平成13年8月28日	ISO9001認証取得
平成21年4月1日	(独)国際協力機構(JICA)のコンサルタント登録
平成23年4月11日	震災後、郡山市に本社機能を移し、再開
平成23年5月	相馬事業所開設
平成23年6月	いわき事業所開設
平成25年12月1日	株式会社ふたばに社名変更、田村営業所開設
平成29年8月	いわき事業所・相馬事業所を閉所
平成29年8月	富岡本社・郡山支社の新築移転
令和3年3月	ふたば交流センター『整の箱』開所
令和3年11月	創業50周年を迎える

受賞歴・認証制度

平成27年3月	がんばる中小企業300社受賞(経済産業省中小企業庁)
令和元年5月	第39回 東北建築賞<特別賞>受賞
令和元年12月	第5回 ふくしま産業賞<知事賞>受賞
令和元年12月	第36回 福島県建築文化賞<優秀賞>受賞
令和2年8月	令和2年度福島県土木・建築委託業務表彰受賞
令和2年10月	地域未来牽引企業(経済産業省)選定
令和5年8月	令和5年度福島県土木・建築委託業務表彰受賞

事業所

富岡本社



〒979-1113 福島県双葉郡富岡町曲田55番地
TEL.024-22-0261 FAX.024-22-0368

郡山支社



〒963-0107 福島県郡山市安積3丁目157番地
TEL.024-954-3832 FAX.024-954-3835